



首都高速の道路情報用 標識柱の設置

Erection of Traffic Signs
on Tokyo Metropolitan Expressway

川田建設(株)・土木保全事業部

1. まえがき

近年、首都高速道路において、大型で視認性の良い文字情報システム機器や、図形表示による情報板が多くみられるようになった。これは首都高速道路公団が利用者に対するサービスの向上、および渋滞緩和を目的として行っているものである。

これに伴い、情報板の大型化やシステムの増設による荷重の増加が生じており、既設のパイプトラスタイプ標識柱の劣化や形状(景観)の改善を目的とした取り替え工事と併せ、新型の標識支柱設置工事が数多く発注されている。

当社においても、現在までに、取り替え工事を主体として新型の標識支柱設置工事や所要時間表示板の添架工事を10件近く受注して、現在施工中である。その中から代表的なものをいくつかあげて、以下に説明する。

2. 道路情報用標識柱の例

(1) 標準型(タイプ-1)

図-1に新旧の標準型標識柱を示す。a)は鋼管トラスタイプの旧タイプであり、荷重の増加に加えて標識板の背景が煩雑であることから、b)の箱形断面の門型ラーメン構造の新型タイプに構造変更されたものである。写真-1のようにすっきりして視認性が良くなっている。

(2) 2層構造型(タイプ-2)

2層構造型標識柱は、文字情報板と所要時間表示板を両方設置する必要がある路線部に設置される標識柱で、路線幅員に制限があるような場合に用いられるタイプで



写真-1 新標準型標識柱(例)



写真-2 2層構造型標識柱(例)

あり、路線幅に合わせて支柱形状を決定している。なお、写真-2はその一例である。ただし、上層梁に設置する所要時間表示板は未設置である。

3. あとがき

紹介した以外にもT型ラーメンタイプの標識柱がある。いずれも旧来のものにない洗練されたシンプルな形状であり、設置される新型の情報システムとあわせて利用者に歓迎されることであろう。現在、当事業部では少しでも早く情報提供が開始できるように急ぎ工事を進めているが、都市内の重交通供用下における標識柱設置工事は工事そのものの安全確保に加えて、交通事故に対する配慮を行いながら施工することが絶対条件である。全社をあげて無事故施工に取り組んでいる。

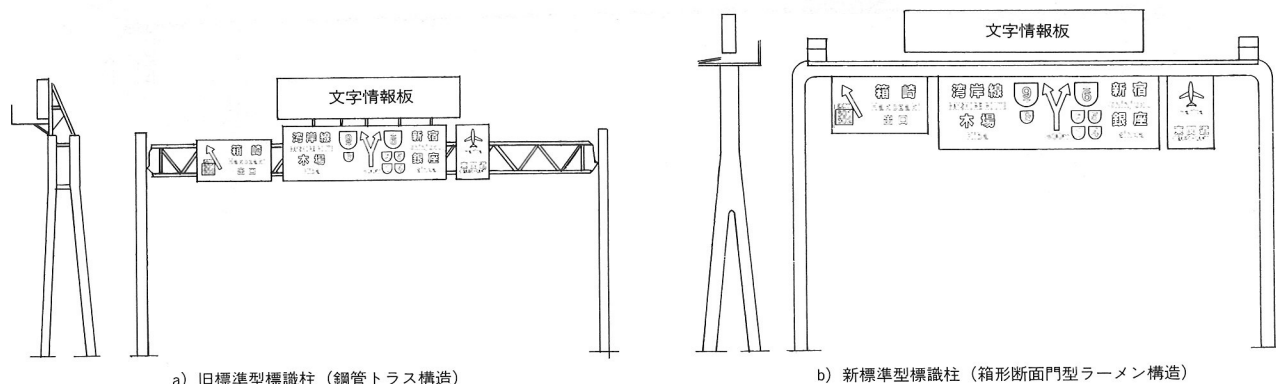


図-1 標準型標識柱

(文責・山岸俊一)